

企業名

ジャスト株式会社



高度外国人材のエンジニアリングスキルにより、自動化を通じた業務効率化が進んでいる。

企業インタビュー



岡崎 千晃 氏

担当部署
企画部

事業内容

1950年創業のメッキ加工メーカーで、現在は主に自動車部品のメッキ加工を手がける。ダイヤモンドをメッキで固着させる「ダイヤモンド電着」という独自技術を活かし、石英・光学レンズ加工の工具や、鑷子・鉗子などの医療器具の加工も行う。

企業概要

企業名：ジャスト株式会社

所在地：山形県上山市金谷字下河原1360

設立年：1994年

資本金：2,000万円

従業員数：77名

うち高度外国人材2名

出身国・地域：フィリピン2名

業種：製造業（金属製品製造業）

ホームページ：<http://yamagata-just.co.jp>

高度外国人材を受け入れたきっかけ・背景

優秀なエンジニア人材を採用すべく、フィリピンに赴いた

当社は、メッキ加工の業務を効率化するため、手作業の自動化を担えるエンジニア人材の採用活動を開始しました。しかし、日本人エンジニアの求人倍率が高かったこともあって、なかなか応募がなく、採用は難航。そんな折、フィリピンがエンジニアリング教育に秀でており、優秀なエンジニア人材を数多く抱えていることを知り、社長自ら現地採用に赴きました。

高度外国人材受け入れに当たっての取組内容

日本での新生活をスムーズに始められるよう、社宅を用意

外国人材に気持ちよく働いてもらうためには、まず日本での暮らしに慣れてもらうことが大切です。そこで、会社の近くにあった土地を購入して新しい社宅を建て、快適に住める場所を確保しました。また、外国人材が来日した折には、周辺のスーパーやホームセンター、百円ショップなどを一緒に回って生活必需品の買い出しを手伝い、新生活をスムーズに始められるようにしようと考えていました。

高度外国人材採用に当たっての課題と解決策

非言語的なコミュニケーションで、日本語の壁を乗り越える

フィリピンにおける採用活動では、製造業の自動化に関わる知見を持った人材を選ぶことを意識していました。プロセスの自動化は、当社も初めて取り組むプロジェクトであり、先輩社員による教育が難しかったからです。結果的に、機械エンジニアリングとITエンジニアリングの双方を学んだ人材が2人入社しました。しかし入社後、外国人材にメッキ加工の業務について説明する際、日本語の専門用語や細かなニュアンスが伝わらずに苦労しました。そこで、最初は英語を話せる社員が外国人材と現場の社員の間に通訳。やがて現場の社員たち自身も、図を描いたりジェスチャーで示したりと、言語を使わないコミュニケーションを活用し始め、なんとかメッキ加工のプロセスを正しく理解してもらえるようになってきました。

CASE 08



高度外国人材定着に当たっての課題と解決策

企業側の配慮と外国人材の特性、双方が定着の鍵

当社は、外国人材と同じ業務を行う先輩社員がいなかったため、外国人材が定着しづらい環境だったかもしれません。それでも外国人材が今まで働き続けてくれているのには、いくつかの理由が考えられます。

まず、複数名の外国人材を同時に採用して同じ業務に当たってもらい、互いに助け合えるようにしたこと。また、業務負荷が大きくなり過ぎないよう、業務スケジュールにゆとりを持たせたことや、私を含む社員が悩みごとなどの相談に乗り、時には現場の社員とのコミュニケーションを取り持ったことなども、功を奏した可能性があります。

しかし、最も大きな定着要因は、本人たちの特性でしょう。素直に他人の意見に耳を傾ける姿勢によって社員の信頼を勝ち取り、仕事を充実させながら、近隣のフィリピン人コミュニティに入ってプライベートも楽しんでいるのです。今後2人には長く働き続けて欲しいと考えています。

高度外国人材活用による成果・変化

自動化に懐疑的だった社員も、徐々に期待を寄せ始めた

現在、外国人材2人には、メッキをつけない部分に印をつけるマスキング作業の自動化に取り組んでもらっています。既にプロトタイプが完成し、最初は手作業の自動化に懐疑的だった社員たちも、徐々に意義を実感し始めているようです。

今後はマスキング作業の自動化における精度を高めつつ、機械学習などを活用して検査作業の自動化にも着手してもらおうと考えています。もしかすると、社員たち自身から自動化の提案や要望が上がる日が来るかもしれません。徐々に自動化の範囲を拡大しながら、ゆくゆくは他社にも自動化ノウハウを提供し、業界全体のDXに貢献したいと考えています。

もちろん、それを実現するためには、自動化を担う人材がさらに必要です。外国人材を含め、今後も採用活動を強化していきたいと考えています。

高度外国人材社員

インタビュー

自動化プロジェクトを率いる
マネージャーになりたいです。



Lilang Edgar Jr

リラン エドガー ジュニア 氏

国籍・地域
フィリピン 2022年入社

入社理由

私は、フィリピンの大学でコンピューター工学（機械エンジニアリングとITエンジニアリングを含む）を駆け回った研究を行っていました。製造業が盛んな日本なら、自分の知見を活かして働けるはずだと考えていたところ、エンジニア採用のためにフィリピンを訪れていたジャストの社長に出会い、同社への入社を決めました。日本語会話には不安もありましたが、入社前に日本語学校に通って日本語力を伸ばしました。

業務内容

メッキ加工プロセスの自動化プログラムを開発するのが、私の仕事です。同じ仕事に携わる先輩はおらず、同時期に入社したフィリピン人社員と2人だけで取り組んでいるため、うまくいかないこともあります。上司や先輩との距離が近く、自分の意見も伝えられるので働きやすいです。自動化プログラムのプロトタイプが完成した時、周囲の社員たちに「さすが」と言われて大きなやりがいを感じました。

東北地域で働く理由・良さ

ジャストの同僚たちは困った時には助けてくれますし、私のことを気にかけて親しく接してくれます。仕事の休み時間には同僚たちと料理の話で盛り上がり、同僚たちに私の作ったフィリピン料理を振る舞ったりと、毎日楽しく過ごしています。南国育ちの私には、冬の寒さがこたえますが、スープなどの温かい食事と暖かい服装を心がけることで、乗り切ることができるようになりました。

今後のキャリアプラン

入社前の目標通り、自分のエンジニアリングスキルを活かして働いています。今後はマネジメントのスキルも磨き、プロジェクトマネージャーを目指したいと考えています。現時点で自動化プロジェクトに携わっているのは自分を含めて2人だけですが、これから組織が大きくなった時に、メンバーたちをまとめ、プロジェクトを成功に導けるような存在になりたいです。